

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0491300034
法人名	医療法人 一秀会
事業所名	グループホーム 堤通り
所在地 (電話番号)	〒989-5502宮城県栗原市若柳字川南堤通り20-25 (電 話) 0228-32-7130
評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 21 年 2 月 23 日

【情報提供票より】(平成 21 年 1 月 26 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 4 月 10 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	13 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 6.5 人

(2)建物概要

建物形態	併設/単独○	○新築/改築
建物構造	木造	造り
	1階建て	1階 ~ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	16,500 円	
敷 金	有(円)	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		950 円	

(4)利用者の概要(1 月 26 日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 84 歳	最低	71 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	栗原市立若柳病院	沢辺歯科クリニック
---------	----------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営主体は医療法人一秀会で、栗原市で老人保健施設ジェスタなどを運営している。県道に面した住宅地にあり、近くには大型スーパー、高校などがあり立地に恵まれている。管理者は介護職として経験を活かし立ち上げから携わり2年になる。振り返ると、地域の交流の難しさを感じながらも新しい取り組みが思うようにできないでいると話されていた。ゆったりとした居住空間に住まわれている入居者は、表情もよく光が差し込むリビングで思い思いに寛がれていた。このたびの外部評価で地域性を取り入れた理念、第三者委員の設置、災害対策の3項目を取り組み課題とした。管理者、職員も地域との関係の必要性を感じており、今後さらに努力し、地域福祉の拠点となるよう期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価の改善課題は、①地域との付き合い②現状に即した介護計画の見直し③栄養摂取や水分確保の支援。この3項目は改善されていたが引き続き改善して行きたいとしている。④災害対策においては避難訓練の実施はしているものの地域住民の協力要請と夜間想定避難訓練に至っておらず、今回も課題として取り上げた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員に説明し資料を渡し、項目を割り振り記入をしてもらい、各ユニットリーダーがまとめ作成した。設問の内容が難しく十分に理解できない職員もあり、一部取り残しもあるとしているが、改善に向けた話し合いを持ち、取り組むことを望みたい。</p>
重点項目②	<p>概ね2か月に一回開催され議事録も作成されていた。構成メンバーの参加者に地域住民や、家族の参加をもう少し募り、運営推進会議を有意義なものとし、サービスに取り入れ運営をしていただくことを期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>詳細に記録した介護記録を請求書とともに同封し、入居者の様子がよくわかると家族から好評である。玄関に意見箱を置いたり、面会時に意見、要望等を聞きその都度対応している。相談窓口の1つとして外部の意見、入居者・家族が相談しやすいよう、第三者委員を選定し、重要事項説明書に明示するようお願いし、今回の課題として取り上げた。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、双方の行事、地域清掃に参加している。ホームの広報誌を近隣に手渡して配布するなど地域交流に向けた取り組みをされ、近隣との関係性も良くなっている。今後、避難訓練、運営推進会議等に参加を呼びかけ、地域の協力体制を図り、地域に根ざしたホーム作りをお願いしたい。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員間で話し合いをし「楽しい生活、ゆっくりとした生活、自分らしい生活」と、入居者の生活を尊重した独自の理念を掲げている。地域の中でその人らしく暮らし続けることを大切にしたい理念を加えることを望みたい。	○	本人本位の生活を支えることに加え、事業所自体が地域に根差し、入居者は地域の住民として、地域に守られ、安心して暮らし続けることが望ましい。今後地域密着型の事業所としての理念に加え、地域と共に入居者の生活を支援することを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を各ユニットに掲示し、職員間で共有する為にサブテーマを掲げ、月1回の内部研修で話し合いの場を設けている。今後はすでに作成しているブリセプター評価表を活用し、実践に向けて取り組んでいきたいとしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、職員が近隣に手渡して広報誌を持参したり、地域の清掃に参加したり、地域交流も活発化している。管理者、職員は地域の交流をさらに広めようと研修を受けたキャラバンメイトを中高生に呼びかけ、地域と交流を深め取り組んでいこうと意気込みを話されていた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に説明し資料を渡し、項目を割り振り記入をしてもらい、各ユニットリーダーがまとめ作成した。設問の内容が難しく十分に理解できない職員もあり、一部取り残しもあるとしているが、改善に向けた話し合いを持ち、取り組むことを望みたい。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、家族1～3名、地域包括支援センター職員、ホーム職員2名のメンバーで概ね2か月に1回開催している。入居者の状況、事故、活動報告や介護報酬等の情報の説明をし、要望、助言等を頂いている。今後は地域、家族、学校等に参加を呼びかけて会議を有意義なものとしてサービス向上に向けていくことを期待したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険法など制度的にわからないことを聞いたり、地域に広めるための介護教室の講師として参加している。行政主催の研修等に積極的に参加し、市町村と連携を取り、地域に向け認知症ケアの説明をしてもらう等サービスの質の向上に働きかけていただきたい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	詳細に記録している介護記録、預かり金明細書、ケアプランのモニタリング、請求書と一緒に毎月送付している。ホームでの生活の様子がよくわかると、家族より好評である(アンケートより)状況の変化時はその都度、面会時にも気軽に話し合うことができている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置したり、運営推進会議で意見、要望等を聞き、その都度、職員間で話し合いをし対応している。これまでも洗濯物の入れ間違いで家族より指摘があり改善している。	○	相談窓口の一つとして、入居者・家族が相談しやすいように第三者委員を決め、重要事項説明書の苦情受付窓口に明記し、運営に反映するよう取り組むことを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまでに新しく1名の職員が加わっただけで異動はなかった。新人の職員に自己紹介をしていただき、特にダメージを与えることもなく自然に打ち解け受け入れていた。家族には「つつみどおり新聞」にてお知らせをしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の年間計画を立て、職員が交代でテーマをあげて、講師になり、勉強会を実施している。各職員が自ら勉強し成果を上げている。資格取得後は手当が支給され励みになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO県グループホーム協議会に加入している。交換研修や実践研修、交流会に職員を交代で参加させ、他の施設を知り、交流することで良い機会になっている。それらを実践に取り入れ、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居までに実地調査で何度かお宅を訪問し、馴染みの関係を築いてからと家族に相談するがすぐに入居を希望される方が多い。入居後に自宅にお連れしたり、家族に面会を多くしていただくよう声をかける等工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	干し柿を吊るす紐の結びや、野菜の切り、行事に関する細かいことなどを、体の痛みの為うまく出来なくなっている方のできるだけ声かけし励ましながら、お互いに助け合い「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えることを忘れず共に支えあい過ごされている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者同士、職員間の日常の会話から得た情報をもとに共有し合い、一人ひとりの思いを引き出し対応している。日常の役割や、墓参り、入居前に通所されていたデイサービス、自宅への外出等入居者の思いや意向を引き出しながら対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護記録から情報を得、本人家族の要望を取り入れ、定期的に職員間で話し合いを持ち、東京センター方式を活用し介護計画書を作成している。それを家族に説明し、その都度同意を得ている。さらに介護計画書の作成方法を工夫し、取り組まれている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	カンファレンス予定表を作成し、定期的に見直し、評価をし対応をしている。また、急変時、状態の変化時はその都度状況に応じて計画書を変更し、家族に説明をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望により、通院、理、美容の送迎等柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のほとんどがかかりつけ医を利用し職員が対応している。受診時の情報はその都度家族に伝えている。緊急時は、最寄りの病院を利用することがあり、かかりつけ医院との医療連携が速やかになるよう取り計らっていききたいとしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の重度化、終末期に向けた指針を成文化し、入居時に家族に説明し、同意を得、意思確認書を取り交わしている。医療連携を図り、過去に一度職員の研修をしているとのことだか、今後、段階に応じた研修の実施と、医療機関との連携の強化、入居者家族へ状況に応じて説明をしていくことを望みたい。		
た					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の思い、行動を否定することなく受け入れることにしている。呼び名は、～さんを基本にしているが入居者によって「先生」とお呼びしている方もいる。排泄時、食事等の声掛けに工夫しさりげない対応をしている。記録などの書類は棚に保管し、施錠している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のこれまでの生活を尊重した対応を基本にしている。近所を毎日散歩する人、気分転換にと遅番の職員と夜に散歩する人、部屋のソファに座り食事をとられる方と本人の希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員が入居者の希望を聞き、献立を作成する。週に3回、近くのスーパーに入居者2～3人で食材の買い出しに行き、食事の準備(食材切り、味付け、盛り付け)後片付けを入居者と一緒にし、皆で食卓を囲み和みながら食べる。畑で採れた野菜を使ったり、行事食や誕生会の好みのメニューは皆さんの楽しみとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望する時間に入浴をしていただき、夜間入浴の希望者はなく、足湯、シャワー浴など希望に応じている。拒否される方には職員が交代で声をかけている。季節により、ゆず湯、菖蒲湯を楽しんでいただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の役割も定着してきており、カーテンの開け閉め、散歩に行く人、畑づくり、食事の際の手伝い、洗濯物たたみ、植木の管理、御詠歌を歌われる方、朝の挨拶、司会など職員のさりげないサポートで支援し、生活している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所を散歩したり、馴染みの理美容室に行ったり、洋服を買いに行ったり、自宅、墓参りと希望に応じて外出をするなどの支援をしている。さらに一人ひとりの要望を聞いたり、家族に呼びかけて家族と一緒に外出できるようにしていきたいとしているので期待したい。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないことの主旨を理解している。日中、居室、玄関は施錠せず、入居者の状況を把握し、一定時間ごと観察状況をチャートに記録し職員間で見守りしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年度避難訓練を3回実施し、そのうちの2回は消防署が立ちあっている。地域に呼びかけたが日程の調整がつかず協力が得られなかった。災害マニュアルは訓練計画書の中に位置づけ、非常用食料、ラジオ等は備えている。昼夜を問わず入居者が避難できることを想定した訓練や日頃から地域住民の協力要請をお願いしたい。	○	火災や地震の災害時に向けて夜間想定訓練をぜひ実施し避難経路、緊急の連絡方法等の確認をしていただきたい。その際、近隣の住民に声をかけ一緒に訓練をして協力を得られるよう働きかけるをお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表をもとに法人の栄養士の助言、指導を受けている。食事、水分、体重のチェックを行い、一人ひとりの状態を把握している。疾患により水分、塩分、禁止食品の対応は医師、栄養士の指導のもと対応している。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境、日当たりがよく、木造のゆったりと設えた建物で生活をされている。各ユニットのリビングは明るく、景観がよく四季の移ろいが楽しめることができ、そこで風船バレー、カラオケなどをしたり過ごされている。ユニットに続く通路がウッドデッキになっており、天気の良い時にはそこでくつろがれたりしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は同じ広さで入居者の状況、希望により、使いやすく整理されている。馴染みの物の持ち込みもあるが中にはしまいこんでしまう方もいるのですっきりとした居室が多く見られた。本人、家族と話し合いながら、今後工夫し更に本人にとって居心地の良い居室作りをしていきたいとしている。		